

巻頭言



環境白書を読んで、 あらためて技術士に思うこと

北海道技術士センター 副会長
技術士（総合技術監理部門、水道部門）

中野 淑文

21世紀は「環境の世紀」と言われています。2003年(平成15年)版の環境白書を読む機会を得ました。今年の白書のテーマは、「地域社会から始まる持続可能な社会への変革」で、地球の環境問題は、人間活動のすべてが地球規模に影響を与えたことに起因しており、その解決には一人ひとりの生活や、社会経済のあり方そのものを変えていかねばなりません。

このための具体的な行動として、一人ひとりの取組が、行政・企業への影響や社会経済全体へ変革の可能性を与えること、地域の取組が地域状況を的確に把握し、地域の個人・企業・団体の連携を図り、それが意識の高揚に繋がり、地域の活性化にも大きく寄与することができることを国民に呼びかけています。

最近、エコロジカル・リユックス、地産地消、グリーンコンシューマー、エコマネー、スローフード、ローハスなど環境に関する様々な言葉が、目につく様になり、環境の時代を実感するところです。

人間活動は、環境から資源を活用し、そして様々な廃棄物を排出し、いままで、環境への配慮が足りないままに人間活動が活発となり、第2次大戦後には大量生産、大量消費、大量廃棄の時代に突入しました。環境負荷の増加に伴い、温暖化など地球環境問題が大きくなった今、人類の未来のために、子供・孫のために環境対策を積極的に行っていかなければなりません。

環境問題は、内容が多岐にわたっており、個人、企業、団体、自治体などがコミュニケーションを図

り協働により、地域特性の生かした多様性のある環境活動を行うことが必要であります。このため、様々な意見を専門的見地から集約し、収束に向け提案・助言をする客観的な立場にある専門的な人材、広範な分野の人材、地域に根ざした知恵や生活習慣に詳しい人材が、市民、行政の中にも必要であります。この専門的な人材として、技術士が、公益確保の責務として（公共の安全、環境の保全その他の公益を害することのないように努める）、技術士倫理を踏まえ、積極的に関わっていくことが望まれるのではないのでしょうか。

北海道技術士センターの研究会活動は、各部門の技術士による北海道という地域特性を踏まえ、様々な議論そして提言など、行ってきたところであります。今回号の特集は研究会活動であり、その成果については、各研究会活動を通じてのまさに技術士の様々な知恵が結集されてきています。

来年は第31回全国大会が札幌市で開催されることになっています。大会のテーマは、「社会貢献——技術士は何ができるか、何をなすべきか——」であり、5つの分科会を各研究会が受け持ち、我々技術士の今後の社会貢献の道を探る。そして技術士の存在と、社会への貢献性を広く発信していくこととなります。

今後、技術者として地域社会から始まる持続可能な社会の実現に向けて、技術士の一人ひとりの活動、各研究会活動が、一つの大きな核になるものと大いに期待するところであります。